

北海	東北區	關東區	北陸區	東山區	東海區
青岩宮秋山福	茨栃群千東神	新潟富石福	山長岐	靜愛三	
森手城田形島	木城馬葉京川	湯山川井	梨野阜	岡知重	
普稍普稍普	稍不稍不稍	稍不不不	稍不不不	普普普	
良通通通良	良良良通良	良良良良	良良良良	通通通	

近畿區	中國區	四國區	九州區	沖繩
滋大兵奈和	鳥島岡山	德香愛高	福佐長熊大宮鹿	
賀都阪庫良山	取根山島口	島川媛知	岡賀崎本分崎島	
普稍普稍普	普普普普	不稍稍普	普稍稍普	稍
良通通通良	通通通通	不不不	不不不	良

減收は見たが

全國の首位を確保

小麥王國茨城の貫録

縣統計課が本月五日午後四時公表した昭和十三年麥收穫高調査によれば、本年の作付反別は大麥三萬五千三百八十三町九反歩(六分八厘増)稈麥二千六百四十三町四反歩(四分七厘減)小麥五萬三千八百二十七町二反歩(零分四厘増)燕麥四町五反歩(五割五分二厘増)計九萬一千八百五十九町歩(一分六厘増)で本年の收穫高及び其の前年との比較は

大麥	七二六、六一八石	八〇、〇四六石	九分九厘減
稈麥	二四、三一	七、四五六	一割七分九厘減
小麥	六五二、三九三	七一、七九八	九分九厘減
燕麥	四一	一三	四割六分四厘増
計	一、四一三、三六三	一五九、二八七	一割一厘減

本年收穫高 前年收穫高 比較増減

である。大体本年の麥作景況は冬季に低溫過乾の氣候が持續した爲生育不良となり、寒害は平年に比し多大であつたが、

春季になつて氣候が概して順調だったので作況好轉を見たが結實期に於ける不順な氣候が登熟を害し、且つ病虫の發生を見たのと、六月中下旬の霖雨に加ふるに稀有の洪水を蒙り流失及び發芽腐敗したものなどが多かつたので大麥、稈麥、小麥と總計ともに減收を見たが、農林大臣官房統計課が發表した全國の麥收穫高から見ると大麥は埼玉縣の七十五萬一千三十四石が首位をため、茨城縣は七百二十六萬六千六百八十八石で第二位となり、稈麥は三萬四千三百一十一石で全國第二十四位であるが、小麥は六十五萬二千三百九十三石で斷然首位を占め、大麥、稈麥、小麥の總計に於ても全國第一位であり、麥類生産縣茨城の盛名を本年も亦確保した譯である。本年作付反別、收穫高及び前年との對比増減は左の如くである。(△印は減收)

大 麥

稗 麥

小 麥

郡市別	養蠶戸數	蠶種掃立 數 量	白 繭		黃 繭		計	前年收繭高	前年ニ比シ増減
			七貫	七貫	九貫	九貫			
水戸	五戸	110,000	七	1,275	九	1,275	1,147	△	1,147
東茨城	四,七九九	110,300	三	9,800	九	12,600	11,700	△	9,000
西茨城	一,三三〇	110,300	三	9,800	九	12,600	11,700	△	9,000
那珂	三,〇〇六	110,300	三	9,800	九	12,600	11,700	△	9,000
久慈	二,八七〇	110,300	三	9,800	九	12,600	11,700	△	9,000
多賀	八,〇九九	110,300	三	9,800	九	12,600	11,700	△	9,000
鹿島	二,四三三	110,300	三	9,800	九	12,600	11,700	△	9,000
行方	八,九〇四	110,300	三	9,800	九	12,600	11,700	△	9,000
稲敷	一,五五〇	110,300	三	9,800	九	12,600	11,700	△	9,000
新治	二,〇四〇	110,300	三	9,800	九	12,600	11,700	△	9,000
筑波	一,〇六五	110,300	三	9,800	九	12,600	11,700	△	9,000
眞壁	四,一九一	110,300	三	9,800	九	12,600	11,700	△	9,000
結城	四,〇九七	110,300	三	9,800	九	12,600	11,700	△	9,000
猿島	五,六四三	110,300	三	9,800	九	12,600	11,700	△	9,000
北相馬	九,七一	110,300	三	9,800	九	12,600	11,700	△	9,000
合計	五,八三九	110,300	三	9,800	九	12,600	11,700	△	9,000

「春蠶收繭高は………」

縣下の

百八十七萬八千餘貫

前年の收繭高より七分一厘の減收

縣下の昭和十三年に於ける春蠶收繭高は總數百八十七萬八千五百四十七貫(白繭種五十四萬三千二百二十貫,黃繭種百三十三萬五千四百二十七貫)で前年收繭高二百二萬三千五百五十六貫に比し十四萬四千六百九貫仍ち零割七分一厘の減收を示したと九月五日午後四時縣統計課が調査の結果を發表した。

而して前記の如く前年に比し減收を示したのは繭價安を見越したると勞力不足の爲掃立を手控へ其の數量に於て三十四萬九千八百四十四瓦(壹割三分一厘)減少したのに因るものである。之を郡市別に示せば次の如くである。

郡市別	養蠶戸數	蠶種掃立 數 量	白 繭	黃 繭	計	前年收繭高	前年ニ比シ増減
			七貫	九貫	貫	貫	(△印減)
水戸	五戸	110,000	七	1,275	1,282	1,147	△
東茨城	四,七九九	110,300	三	9,800	12,600	11,700	△
西茨城	一,三三〇	110,300	三	9,800	12,600	11,700	△
那珂	三,〇〇六	110,300	三	9,800	12,600	11,700	△
久慈	二,八七〇	110,300	三	9,800	12,600	11,700	△
多賀	八,〇九九	110,300	三	9,800	12,600	11,700	△
鹿島	二,四三三	110,300	三	9,800	12,600	11,700	△
行方	八,九〇四	110,300	三	9,800	12,600	11,700	△
稲敷	一,五五〇	110,300	三	9,800	12,600	11,700	△
新治	二,〇四〇	110,300	三	9,800	12,600	11,700	△
筑波	一,〇六五	110,300	三	9,800	12,600	11,700	△
眞壁	四,一九一	110,300	三	9,800	12,600	11,700	△
結城	四,〇九七	110,300	三	9,800	12,600	11,700	△
猿島	五,六四三	110,300	三	9,800	12,600	11,700	△
北相馬	九,七一	110,300	三	9,800	12,600	11,700	△
合計	五,八三九	110,300	三	9,800	12,600	11,700	△